

第2次甲賀市観光振興計画 第1期実施計画(H29～R2)実施・進捗状況

＜基本計画＞

3つの基本戦略に基づいて具体的に取り組む事業を「基本計画」として示します。
 基本計画については、4年ごとの計画見直しにともなってその内容を見直すものとします。
 【 1. 魅力向上戦略 2. 誘客促進戦略 3. 地域活性化戦略 】

担当課評価基準 A…実施計画目標及び概要に対し、「実績」>「計画」 B…実施計画目標の一方「実績」≥「計画」他方が「実績」<「計画」 C…実施計画目標のいずれもが「実績」<「計画」であるがその差が小さい D…実施計画目標のいずれもが「実績」<「計画」であるがその差が大きい
--

■第1期における実施計画

△:検討 ●:実施 →:継続

1. 魅力向上戦略

基本事業	事業概要	第1期				第2期以降の見通し
		H29	H30	H31(R1)	R2	
(1)観光地の魅力向上	本市は、ポテンシャルの高い多様な観光資源を有していますが、魅力的な観光地としての磨き上げや統一的なイメージによるイメージ形成が課題となっています。誰もが訪れたいと思える魅力的なまちづくりの推進と観光インフラの整備により、観光地としての価値の向上を図ります。					
①忍者の歴史・実態の調査と発信	現代に続く忍者の痕跡や、忍者の実態を示す個人所有の古文書等資料の調査を行う、甲賀流忍者調査団「ニンジャファインダーズ」の取り組みをはじめとして、本物の忍者の実像につながる歴史的・文化的資料の発掘・調査と発信に取り組みます。	●	→	→	→	継続
H29実績	評価欄 A 前年度2月の忍者の日記念事業の際、著名な歴史学者である磯田道史氏に甲賀流忍者調査団団長に就任いただき、H29年度からは調査団団長として、本市での調査活動を実施いただくなど、今後の甲賀流忍者調査団にとって大きなスタートとなりました。また、甲賀者忍術伝書その2を制作しました。					
H30実績	評価欄 A 6月に水口町杣中地先で磯田団長による甲賀5人衆の頭であった木村家の調査を実施しました。忍者の痕跡や実態を新たに見付け出すことは非常に困難であるなか、磯田団長がこれまで探し求めていた甲賀流忍者「木村奥之助」の子孫とその痕跡にたどり着けたことで甲賀流忍者の調査を大きく前進することが出来ました。また、甲賀者忍術伝書その3を制作しました。					
R1実績	評価欄 A 6月に甲賀武士の墓のある臨濟宗慈眼寺(甲南町)において、磯田団長のもと江戸甲賀百人組望月藤左衛門組10人の位牌と石碑について調査を実施しました。また水口町杣中の木村家の調査結果についての講演会を実施するとともに、その調査結果を基にしてNHK「ヒストリア」で甲賀流忍者の番組が制作されました。					
R2実績	評価欄 A コロナ禍の制限により、現地調査等は実施出来ませんでしたが、11月22日にグランドオープンしました甲賀流リアル忍者館において、甲賀流忍者調査団展示ルームを整備し、調査結果や活動成果、古文書等の展示を実施しました。また、甲賀者忍術伝書その4を制作しました。					
今後の方向性	磯田団長のもと、歴史文化財課、甲賀忍術研究会等と今後も協力体制を構築し、忍者の実像につながる歴史的・文化的資料の発掘・調査と発信に取り組みます。					
②“忍者の里”の雰囲気醸成	「忍者の飛び出し人形」の全体的な設置をはじめ、観光案内板の意匠や商店のディスプレイ等、来訪者に“忍者の里”を感じさせる身近な取り組みについて関係者と連携して推進します。	●	→	→	→	継続
H29実績	評価欄 A 平成29年4月に「忍びの里伊賀甲賀」のストーリーが日本遺産認定を受け、その財源(文化庁補助金)を活用して各種事業を実施しました。また、ハード整備事業として、日本遺産構成文化財(施設)の12箇所に14基の観光案内や施設PR看板を整備し、忍者発祥の地であることのPRを実施しました。					
H30実績	評価欄 A 文化庁補助を活用して各種事業を実施しました。また、ハード整備事業として、日本遺産構成文化財(施設)の10箇所に12基の観光案内や施設PR看板を整備し、忍者発祥の地であることのPRを実施しました。					
R1実績	評価欄 A 文化庁補助を活用して各種事業を実施しました。また、ハード整備事業として、日本遺産構成文化財(施設)の4箇所に4基の観光案内や施設PR看板を整備し、忍者発祥の地であることのPRを実施しました。					
R2実績	評価欄 A コロナ禍の中で、一部利用を制限しながら9月20日に観光インフォメーションセンター「甲賀流リアル忍者館」をプレオープンし、11月22日にはグランドオープンし、市内の観光ゲートウェイとしてリアル忍者をコンセプトとした施設をオープンしました。					
今後の方向性	日本遺産構成文化財へ誘導するサイン整備や令和2年11月にグランドオープンしました観光インフォメーションセンター「甲賀流リアル忍者館」を中心とした整備を進め、来訪者に忍者の里を感じさせる取り組みを継続して実施します。					
③「(仮称)まちかど案内所」の設置	拠点としての観光協会事務所のほかに、観光客が気軽に立ち寄ることができる「(仮称)まちかど案内所」を主要駅等や交通の拠点に設置し、きめ細かな観光案内体制を整えます。	△	●	→	→	継続
H29実績	評価欄 B 道の駅あいの土山やひと・まち街道交流館において観光案内を実施するとともに、土山サービスエリア内に観光案内所機能を設置し市内観光施設等への案内・誘導を実施しました。					
H30実績	評価欄 A 道の駅あいの土山やひと・まち街道交流館において観光案内を実施するとともに、土山サービスエリア内に観光案内所機能を設置し市内観光施設等への誘導を実施しました。また、観光客受入体制整備として忍者を核とした観光拠点施設整備に向け計画を策定しました。					
R1実績	評価欄 A 道の駅あいの土山やひと・まち街道交流館において観光案内を実施しました。また、観光客受入体制整備として観光ゲートウェイと位置付け、本市の総合観光案内機能を有する忍者をコンセプトとした観光拠点施設整備工事を実施しました。					
R2実績	評価欄 A コロナ禍の中で、一部利用を制限しながら9月20日に観光インフォメーションセンター「甲賀流リアル忍者館」をプレオープンし、11月22日にグランドオープンし、市内の観光のゲートウェイと位置付けたリアル忍者をコンセプトとした施設をオープンしました。					
今後の方向性	観光インフォメーションセンター甲賀流リアル忍者館の2次整備と市内各施設の受け入れ体制を充実します。					

基本事業	事業概要	第1期				第2期以降の見直し
		H29	H30	H31(R1)	R2	
④観光施設の整備	<p>忍者の住居跡とされる建物の観光施設としての整備をはじめ、既存の忍者観光施設や多羅尾代官陣屋跡の磨き上げを行い、誘客の促進につながる整備を市民・施設管理者と連携して取り組むとともに、各施設の運営を支援します。また、お茶をはじめとする農産物の販売促進や信楽焼など地場産業の活性化を狙い、道の駅等の新設を検討します。</p>	△	△	●	→	継続
H29実績	<p>評価欄 B 観光施設や資源の活用推進を官民連携で取り組みを進めていくため、甲賀市観光ビルドアップ事業補助金を施行し、市内観光資源の磨き上げにかかる事業への補助制度を新設しましたが、申請件数が0件であったことから制度周知に努めます。</p>					
H30実績	<p>評価欄 A 甲賀市観光ビルドアップ事業補助金を改正し、歴史文化都市構築補助金とし、観光資源を活用したイベント実施や磨き上げ事業、バスの乗り入れ補助等を行うことにより、市民に対して市内観光資源の認識向上、並びに市外からの観光誘客の推進を図りました。また、忍者を核とした観光拠点施設整備基本構想を作成し、拠点施設整備に向けて実施設計を行いました。</p>					
R1実績	<p>評価欄 A 歴史文化都市構築補助金とし、観光資源を活用したイベント実施や磨き上げ事業、バスの乗り入れ補助等を行うことにより、市民に対して市内観光資源の認識向上、並びに市外からの観光誘客の推進を図りました。また、忍者を核とした観光拠点施設整備基本構想を作成し、拠点施設整備に向けて実施設計を実施するとともに道の駅の再整備に向けたマーケティング調査等を実施しました。</p>					
R2実績	<p>評価欄 A 歴史文化都市構築補助金について、安全対策を充実させるため、歴史文化都市構築補助金の補助金を増額し、新型コロナ対策を図りながら継続実施するとともに、忍者を核とした観光拠点施設整備基本計画に基づく、観光インフォメーションセンター「甲賀流リアル忍者館」をオープンしました。また、関係団体の意見を踏まえた道の駅あいの土山再整備基本計画の策定に取り組みました。</p>					
今後の方向性	<p>歴史文化都市構築事業により、市内観光資源の活用を継続して推進するとともに、忍者を核とした観光拠点施設整備構想に基づく、拠点施設の2次整備を進めます。</p>					
(2)市民と連携した資源開発	<p>魅力的な観光地の基礎となる魅力的なまちづくりには、市民・事業者・関係団体の主体的な参加が不可欠です。市民参加型の観光資源の開発を進めることで、地域の活性化と運動した観光まちづくりを推進します。</p>					
①市民協働によるおもてなし体制づくりと観光資源開発	<p>市民の自主的な活動として取り組まれる、歴史体験提供や語り部活動等に代表される甲賀流おもてなし体制づくり、観光地の磨き上げ、地域観光資源のPR等の活動について、協働による取り組みを推進します。</p>	△	●	→	→	継続
H29実績	<p>評価欄 A 水口岡山城の会と「よみがえり水口岡山城2017」事業を、飯道山観光協会と「甲賀三霊山」事業を、紫香楽宮観光振興プロジェクト実行委員会と「紫香楽宮都あかり2017」事業を協働して行うことにより、観光資源の活用、さらには観光まちづくりを推進しました。</p>					
H30実績	<p>評価欄 A 「甲賀三霊山」事業や「紫香楽宮都あかり2018」事業を昨年に引き続き協働して観光振興に取り組みました。また、市民や観光関連団体等で組織しました観光拠点施設整備事業推進委員会により、本市の観光受入れ体制整備計画となります「忍者を核とした観光拠点整備基本計画」を策定しました。併せて、日本遺産事業として忍者観光に関するガイド育成講座を開催し、新たなガイド育成に取り組みました。</p>					
R1実績	<p>評価欄 A NHK連続テレビ小説「スカーレット」の舞台地に選ばれたことを契機として、28の関連団体で構成する「スカーレットで甲賀を盛り上げる推進協議会」を設立し、官民連携した受入れ体制整備等、誘客事業に取り組みました。</p>					
R2実績	<p>評価欄 A スカーレット効果を一過性に終わらせないために、「スカーレットで甲賀を盛り上げる推進協議会」においてスカーレットレガシーを活用した受入れ体制整備や情報発信、観光誘客事業に取り組みました。</p>					
今後の方向性	<p>ガイド育成について、継続的に実施するとともに、市民や関係団体との連携はこれからの観光振興には不可欠であることから、さらなる官民連携事業を推進します。</p>					
②土山宿と水口宿の連携	<p>「東海道土山水口宿場会議」を中心に、市民・事業者と連携して「東海道」としての一体的なPRや観光整備を進めていきます。</p>	●	→	→	→	継続
H29実績	<p>評価欄 B 甲賀市観光協会と連携した「東海道にぎわい再生事業」により、市内の2つの宿場が連携する「東海道土山水口宿場会議」を定期的に開催し、一体的なPRや整備を進めるための意見を出し合いながら、東海道の土山宿を描いた絵地図を作成し、PRを図りました。</p>					
H30実績	<p>評価欄 B 「東海道にぎわい再生事業」により、「東海道土山水口宿場会議」を定期的に開催し、一体的なPRや整備を進めるための意見を出し合いながら、水口宿に名所を案内する立て看板を設置し、PRを図りました。</p>					
R1実績	<p>評価欄 B 「東海道にぎわい再生事業」により、甲賀市観光まちづくり協会や「東海道土山水口宿場会議」と連携し、水口宿の名所案内看板の設置や、水口宿の絵地図を作成し、PRを図りました。</p>					
R2実績	<p>評価欄 B 「東海道にぎわい再生事業」により、甲賀市観光まちづくり協会や「東海道土山水口宿場会議」と連携し、水口宿柏木地域の絵地図を作成し、PRを図りました。また、「東海道土山水口宿場会議」の中に女性部会の設立に向けた協議を進めました。</p>					
今後の方向性	<p>東海道を盛り上げる為、東海道「暮らしにぎわい」再生事業を、関係する、庁内4部局（総合政策部、建設部、教育委員会、産業経済部）連携により協議や活性化に向けた検討を進めます。</p>					
③市民主体の観光まちづくりの促進と地域の誇りの醸成	<p>市民有志との連携による、観光地の評価・検証と観光資源の磨き上げ、歴史的背景や文化的意義の学習・発信を推進し、市民主体の観光まちづくりを促進するとともに、地域の誇りの醸成を図ります。</p>	△	●	→	→	継続
H29実績	<p>評価欄 B 観光施設や資源の活用推進を官民連携で取り組みを進めていくため、甲賀市観光ビルドアップ事業補助金を施行し、市内観光資源の磨き上げにかかる事業への補助制度を新設しました。</p>					
H30実績	<p>評価欄 A 甲賀市観光ビルドアップ事業補助金を見直し、歴史文化都市構築補助金へ改正しました。観光資源を活用したイベント実施や磨き上げ事業、バスの乗り入れ補助等を行うことにより、市民に対して市内観光資源の認識向上、並びに市外からの観光誘客等、観光まちづくりの推進と地域の誇りの醸成を図りました。補助交付実績 22件 総補助金額 16,013千円</p>					
R1実績	<p>評価欄 B 歴史文化都市構築補助金により、観光資源を活用したイベント実施や磨き上げ事業、バスの乗り入れ補助等を行うことにより、市民に対して市内観光資源の認識向上、並びに市外からの観光誘客や観光まちづくりの推進と地域の誇りの醸成を図りました。補助交付実績 15件 総補助金額 12,835千円</p>					
R2実績	<p>評価欄 B 歴史文化都市構築補助金について、安全対策を充実させるため、歴史文化都市構築補助金の補助金を増額し、新型コロナ対策を図るとともに、併せて、イベント等の中止・延期にかかる経費を補助する観光事業等継続支援補助金を創設し、少しでも観光事業実施に取り組みやすい状況を作る為の支援を実施しました。歴史文化補助交付実績 14件 総補助金額 14,734千円</p>					
今後の方向性	<p>歴史文化構築補助事業をより分かり易く、活用し易い補助内容への改正を検討し、新たな事業参画者を募ります。</p>					

基本事業	事業概要	第1期				第2期以降 の見通し
		H29	H30	H31(R1)	R2	
(3)効果的なPRの推進	いかに魅力的な観光地の形成を進めても、それを広く知らせることができなければ観光振興につなげることはできません。甲賀市の認知度の向上と観光地としてのイメージアップを目的として、「甲賀流」、「忍者」をキーワードとした多角的なPRを推進します。					
①「甲賀ブランド」の体系的な推進	「甲賀ブランド」について、事業者には認定後の効果的な情報発信やブランドの体系的な展開のため、カタログギフトの展開等の利用促進につなげる方を検討します。将来的には(仮称)甲賀市版観光DMOが中心となったブランド推進へと移行します。	△	●	→	→	継続
H29実績	評価欄 C 甲賀市版観光DMOの設立に向けた調査を実施しており、現状では甲賀ブランドの新規認定組織が無いため、更新認定審査のみを実施しました。PR方法として「まっぶる甲賀」に掲載し、情報発信を継続的に実施しました。					
H30実績	評価欄 D H29の調査検討結果により、甲賀市版観光DMOの早期設立が難しい状況であることから、中心となり事業推進する組織が無い状況であり、PRとしてはこれまでからの「まっぶる甲賀」による情報発信のみとなりました。					
R1実績	評価欄 D 甲賀市版観光DMOの早期設立が難しい状況であることから、中心となり事業推進する組織が無い状況であり、PRとしてはこれまでからの「まっぶる甲賀」による情報発信のみとなりました。					
R2実績	評価欄 C 11月22日にグランドオープンした観光インフォメーションセンター「甲賀流リアル忍者館」において、地域物産や商品のPRとして甲賀ブランドコーナーを設け広くPRを実施しました。					
今後の方向性	現在暫定的に行政により継続審査を実施しているが、新しい認定組織について検討するとともにブランド認定制度を今後どう再構築するかを早期に検討します。					
②シティセールスの推進	「甲賀流」を統一キーワードとしたシティセールス、「忍者」を前面に押し出したプロモーションの推進を首都圏等で実施するとともに、それらと市内各地の観光資源とを絡めた展開を図り、統一的なイメージによる認知度の向上を促進します。	●	→	→	→	継続
H29実績	評価欄 A 甲賀市で開催していた甲賀流忍者検定の第10回目を記念事業として、東京都港区の増上寺で開催し、首都圏での甲賀流忍者のPRを図り、多くのメディアから取材を受けるなどシティセールスを図りました。					
H30実績	評価欄 A 東京で活躍されている滋賀県ゆかりの会員で組織される一般社団法人東京滋賀県人会と連携し、東京日本橋にある滋賀県の情報発信拠点「ここ滋賀」等での甲賀市イベントの実施や新宿の忍者レストランで甲賀流忍者イベントを実施するなどのPRを実施しました。					
R1実績	評価欄 A 一般社団法人東京滋賀県人会と連携し、「ここ滋賀」でのイベントの他、日本青年会館にて、忍者とお茶をテーマとした甲賀市のPRイベントを実施しました。また銀座の歌舞伎座との連携事業をモデルケース的に実施しました。					
R2実績	評価欄 A 一般社団法人東京滋賀県人会と連携し、「ここ滋賀」でのイベント実施の他、銀座歌舞伎座の木挽町広場において、甲賀市のPRブースを設け、約1か月間の長期に渡り、PRと物産販売を実施しました。					
今後の方向性	民間事業者等と連携し、首都圏からの「甲賀流忍者」を活用したPRを継続することで、甲賀市の認知度の向上を目指します。					
③地元情報の発信	観光アプリケーションの構築による地域情報の発信や、安心して観光できる体制構築のため、災害・緊急時の情報発信について、関係部局と連携して推進するとともに、外国人観光客を対象に多言語化も含め検討します。	●	→	→	→	継続
H29実績	評価欄 B ホームページやfacebook等のSNSの活用による地域情報の発信に努め、災害・緊急時を想定した対応を検討しました。					
H30実績	評価欄 B 国の指導のもと、外国人観光客へ向けた災害情報等を含む情報発信の推進を図りました。また、共生の観点からも甲賀市で暮らす外国人への情報提供を関係部署と連携して検討を進めました。					
R1実績	評価欄 A スカーレットで甲賀を盛り上げる推進協議会と連携して、甲賀市のPRについて、LINEやインスタグラム等のSNSを活用した新たな情報発信を実施しました。					
R2実績	評価欄 B コロナ禍で出来ることをアイデアを出し合いながら、スカーレットで甲賀を盛り上げる推進協議会と連携したPRを継続実施しました。					
今後の方向性	ICTの新たな技術について調査研究し、正確で迅速な情報を提供できるよう検討するとともに、これまで取り組みの弱い多言語化の検討について取り組みを進めます。					
④日本遺産を活用したPRと観光促進	六古窯・信楽焼や甲賀流忍者について、関連自治体と連携して、日本遺産としての魅力やストーリーの発信を行います。具体的には、ホームページ作成、共通パンフレットの作成、サインの整備、映像番組の作成、観光ガイドの育成やマーケティング調査等に取り組みます。	●	→	→	→	継続
H29実績	評価欄 A 「信楽焼」「忍者」とともに、ホームページやパンフレットの作成、マーケティング調査、案内看板や映像の作成等により、観光客を受け入れる体制整備を主に行いました。また、日本遺産サミットや各種イベントにおいてPR活動を行いました。					
H30実績	評価欄 A 観光ガイドの養成や観光案内看板の設置、日本遺産シンポジウムの開催、モニターツアーの実施、東京での忍者百人衆イベント等、観光客を迎え入れる事業と誘客を図る事業を行いました。					
R1実績	評価欄 B 観光ガイドの養成や観光案内看板の設置、日本遺産シンポジウムの開催、モニターツアーの実施、東京での忍者百人衆イベント等を継続実施しました。					
R2実績	評価欄 B 昨年度と併せて新たに本市の7か所が日本遺産構成文化財に認定されたことにより、ホームページやパンフレットを改正しました。またガイド育成講座を継続するとともに、忍者ゆかりの地を巡る伊賀甲賀地域におけるサイクルツーリズム事業に着手しました。					
今後の方向性	作成したパンフレット等を活用したガイド育成講座の実施や、モデルコースの作成等により、ツアー造成へと繋げていきます。					

基本事業	事業概要	第1期				第2期以降の見通し
		H29	H30	H31(R1)	R2	

2. 誘客促進戦略

(1) 観光ビジネスとの連携		観光振興をまちの活性化と産業振興につなげるためには、本市への観光誘客が観光ビジネスとして成立するものでなくてはなりません。魅力ある観光資源の観光ビジネスへの接続を推進し、市域における宿泊客の増加と観光消費の拡大につながる施策の展開を図ります。					
① 公共交通と連携した観光振興		市民の生活交通である鉄道やバス等の公共交通を活性化するため、交通政策部署との連携を図りながら、沿線の観光開発によって観光旅客輸送を増やす取り組みを行います。また、公共交通と連携した観光ルートの設定や観光商品の開発に取り組みます。	●	→	→	→	継続
H29実績	評価欄 B	歴史文化都市構築事業の中で公共交通の利用促進のため乗車料補助の検討、および樺野寺の33年に1度の大開帳に併せ、シャトルバス運行を公共交通推進課やJR、信楽高原鉄道等と検討しました。					
H30実績	評価欄 A	歴史文化都市構築事業のバス乗り入れ補助において、信楽高原鉄道とコミュニティバスの乗車補助を行ったことにより、信楽高原鉄道の乗客増につながりました。また、樺野寺の大開帳に伴うシャトルバスの運行を実施し、観光客の公共交通の利用促進を図りました。					
R1実績	評価欄 A	歴史文化都市構築事業のバス乗り入れ補助において、信楽高原鉄道とコミュニティバスの乗車補助を継続するとともに、NHKやSKR、信楽高原鉄道利用推進協議会、スカーレットで甲賀を盛り上げる推進協議会が連携して、信楽高原鉄道車両をスカーレット仕様に着せ替え、観光誘客を図りました。					
R2実績	評価欄 B	新型コロナウイルスの影響で団体バス利用等の商品造成が苦戦する状況であったことから、歴史文化都市構築事業のバス乗り入れ補助を増額し誘客促進を図りました。またスカーレットレガシーである「テレビドラマの世界展」や「甲賀流リアル忍術館」の新たな施設をコースに取り入れた観光ルートを通し観光誘客を促進しました。					
今後の方向性		ツアーバスによる日帰り旅行へのローカル列車(信楽高原鉄道や近江鉄道等)の活用をPRやイベントでの公共交通の活用呼びかけるとともに、観光ルート整備に伴い市内観光資源を周遊するバスの運行へつなげる。					
② 観光ビジネスマッチングの促進		市内の観光事業者、農業者、商工業者等を対象に、観光を切り口とした連携や、新産業・新サービス創出を図るため、ビジネスマッチング(事業者間交流)を実施します。また、関係機関との連携により、販路開拓やバイヤーへの取次ぎ等のコンサルティングを行います。これらの取り組みを通じた将来的な目標として、「(仮称)甲賀観光見本市」等の開催を目指します。	●	→	→	→	観光DMOへ引き継ぎ
H29実績	評価欄 B	甲賀市商工会、甲賀市観光協会、信楽町観光協会と定期的に会議を開催することで、積極的な情報交換を実施し、既存の様々な業種の現状を把握しましたが、事業者間交流には至りませんでした。					
H30実績	評価欄 B	甲賀市商工会、甲賀市観光協会、信楽町観光協会と情報交換を実施し、民間事業者の現状把握から課題を整理し、ビジネスマッチングに繋げる方策を検討しました。					
R1実績	評価欄 A	連続テレビ小説「スカーレット」の舞台地となったことを契機として、「スカーレットで甲賀を盛り上げる推進協議会」を設立し、事業者間交流を図りながら、協議会が設置し、民間事業者が経営する土産物店を立ち上げ、新たなビジネスモデルを構築するなど、官民連携した観光客受け入れ体制整備や誘客促進事業を実施しました。					
R2実績	評価欄 B	「スカーレットで甲賀を盛り上げる推進協議会」により、スカーレットレガシーを活用した事業を運営会議で意見を出し合いながら継続的に実施しましたが、コロナ禍であることからイベントは実施出来ませんでした。					
今後の方向性		アフターコロナに向けた新たな事業実施方法等の形について官民連携して検討を進めます。					
③ 営業活動による販路の開拓		旅行事業者に対する定期的な営業訪問及び説明会への参加、ダイレクトメール等により、販路の開拓に努めます。	●	→	→	→	観光DMOへ引き継ぎ
H29実績	評価欄 B	ビルドアップ補助金の旅行商品造成事業について旅行事業者へ説明し、ツアー造成につなげました。					
H30実績	評価欄 A	歴史文化都市構築事業のバス乗り入れ補助を活用し、市内を周遊いただくツアーバスの造成を促すため、大阪や名古屋等を中心に旅行者へ観光協会とともに営業訪問を行ったことにより、多くのツアー造成に繋げることが出来ました。					
R1実績	評価欄 B	歴史文化都市構築事業のバス乗り入れ補助を活用し、昨年に引き続き市内を周遊いただくツアーバスの造成を促すため、大阪や名古屋等を中心に旅行者へ観光協会とともに営業訪問を行ったことにより、多くのツアー造成に繋げることが出来ました。					
R2実績	評価欄 C	新型コロナウイルスの影響により、移動や様々な制限により、営業訪問などの活動が実施出来ませんでした。					
今後の方向性		マイクロツーリズムなど新たな観光ルートのモデル化を行うとともに、京阪神および中京地域の旅行事業者を中心に定期的に訪問し、ツアー造成の推進を図る。					
④ スポーツツーリズムの推進		本市の観光入込客の多くを占めるゴルフ場利用客等を主な対象として、スポーツツーリズムの観点から市内の他の観光資源と連携した働きかけを行い、市内観光への誘導を図ります。	△	●	→	→	継続
H29実績	評価欄 C	市内に22コースあるゴルフ場利用客に着目し現状把握に努め、ゴルフ利用者とその家族をターゲットとして市内の観光誘客に結び付けるための方法を検討しました。					
H30実績	評価欄 D	スポーツツーリズムに向けた取り組みは実施出来ませんでした。					
R1実績	評価欄 D	スポーツツーリズムに向けた取り組みは実施出来ませんでした。					
R2実績	評価欄 B	伊賀甲賀忍者協議会において、忍者ゆかりの地をめぐるサイクルツーリズムのコース造成に着手し、新たな観光の形の検討を進めました。また甲賀市観光まちづくり協会と連携して、ゴルフ客の更なる獲得とR3年に実施する新たな事業計画の検討を進めました。					
今後の方向性		造成したサイクルツーリズムの推進を図るとともに、ゴルフ場利用者の家族等をターゲットとした観光誘客事業を検討します。					

基本事業	事業概要	第1期				第2期以降の見通し
		H29	H30	H31(R1)	R2	
(2) 誘客事業・イベントの開催	本市の魅力をもっと多くの人に知ってもらおうきっかけとして、誘客事業やイベントの開催は有効な手段となります。甲賀市ファンを増加、リピーターの拡大を目指した取り組みの拡大・充実を進めるとともに、増加するインバウンドの取り込みを図ります。					
① 信楽まちなかを核とした観光誘客の強化	信楽焼の芸術性を核に各種の地域資源を織り交ぜながら、新たな信楽の発信による、インバウンドを含む観光誘客の強化や地場産業の活性化を推進します。また、信楽を訪れた観光客の市内他地域への回遊の促進について、連携した取り組みの推進や観光ルートの開発に取り組みます。	●	→	→	→	継続
H29実績	評価欄 B 信楽伝統産業会館の移転改築に係る基本設計、実施設計に取り組みました。信楽駅前に移転することから、信楽焼産地のデジタルセンターとして、特に甲賀市の観光案内機能の強化を図ることを重視することとし、やきもの産地各分野の若手(20～40代)との意見交換を通じて基本設計に取り組みました。					
H30実績	評価欄 A NHK連続テレビ小説の制作が決定したことから、新たにロケーション推進室を設置し、現地ロケ地調査などに積極的に協力し、ロケ地は信楽まちなかに限定せず、広く甲賀市内の魅力的なスポットを紹介したことにより、水口町、甲南町でもロケが行われることが決定しました。また、第4回信楽まちなか芸術祭開催に向けた事業の方向性の検討や信楽伝統産業会館の移転改築工事に着手しました。					
R1実績	評価欄 A NHK連続テレビ小説「スカーレット」の放映により、連日、全国に「信楽」「スカーレット」が紹介されたことが大きな追い風となり、本来閑散期である冬期においても団体バスによる観光客や家族や若い世代などの観光客も増加し、信楽は大いに賑わいました。					
R2実績	評価欄 B コロナ禍のため、スカーレットによる観光誘客の大きなチャンスを活かすきれない状況となりましたが、スカーレットレガシーを活かしたテレビドラマの世界展の開催や継続した受入体制整備を実施し、スカーレット効果を一過性に終わらせない取り組みを進めました。					
今後の方向性	今後もスカーレットレガシーを活用した観光誘客に取り組むとともに、信楽町観光協会と連携しながら、国内観光の見直しやマイクロツーリズムなど新たな観光の形やニーズによる事業展開を検討します。					
② 忍者検定の充実	忍者検定を通じて甲賀市ならびに甲賀流忍者の認知度向上を図るため、首都圏等での開催や検定と連携した講演会等の実施、検定合格者との継続的な関係構築、外国語版検定の実施等、甲賀市ファンの開拓につなげる取り組みの検討・実施を行います。	●	→	→	→	継続
H29実績	評価欄 A 広く忍者検定を知っていただく為に、第10回甲賀流忍者検定の初級検定を東京都港区の増上寺で開催し、多くのマスコミに取り上げられるなど、PRに努めました。また、検定参加者へ翌年度以降の中級検定受験等のPRを実施し、甲賀市への誘客を図りました。					
H30実績	評価欄 B 2年ぶりに地元甲賀市での甲賀流忍者検定の開催と併せて、著名な歴史学者であり、甲賀流忍者調査団団長の磯田道史氏の記念講演を開催し、甲賀流忍者発祥の地である本市のPRに努めました。					
R1実績	評価欄 B 甲賀流忍者検定の開催と併せて、甲賀流忍者調査団の磯田団長の記念講演を開催し、甲賀流忍者発祥の地である本市のPRに努めました。					
R2実績	評価欄 D 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度の甲賀流忍者検定は中止となりました。					
今後の方向性	甲賀流忍者検定を継続していくとともに、外国語版検定の実施検討等、新たな取り組みの検討を進めます。					
③ 東海道宿場への誘客促進	東海道を起点として甲賀三大佛(樺野寺・大池寺・十楽寺)のほか水口岡山城、田村神社など東海道沿いの観光施設のPR促進に努め、宿場のまちなかや近隣地域に人が回遊するためのルート化や相互連携に取り組みます。	△	●	→	→	継続
H29実績	評価欄 B ひとまち街道交流館を水口宿の拠点、東海道伝馬館を土山宿の拠点として、2つの宿場の活性化や周辺施設への連携について、東海道土山水口宿場会議で検討し、土山地域の東海道絵地図を作成し、PRを図りました。					
H30実績	評価欄 A 甲賀三大佛の1つである樺野寺で33年に1度の大開帳が10月に実施されることから、JR西日本とタイアップし、西日本全てのJRの駅で広告宣伝を実施するなどPRに努め、期間中40,000人を超える参拝者を迎え、また周辺の寺社仏閣への周遊PRも実施し、多くの観光客に訪れていただきました。					
R1実績	評価欄 B 東海道土山水口宿場会議での検討を継続実施し、水口地域の東海道絵地図を作成するとともに、水口岡山城を舞台とした、よみがえれ水口岡山城事業や東海道ウォークなどの水口エリアを活用した事業を展開しました。					
R2実績	評価欄 C コロナ禍のため、あいの土山宿場まつりの中止等、東海道関連のイベント事業は実施できませんでしたが、東海道土山水口宿場会議において活性化に向けた検討を進めました。					
今後の方向性	東海道土山水口宿場会議を活用し、2つの宿場を繋ぐルート整備の検討を進めるとともに東海道を盛り上げる為、東海道「暮らし・にぎわい」再生事業を、関係する、庁内4部局(総合政策部、建設部、教育委員会、産業経済部)連携により協議や活性化に向けた検討を進めます。					
④ 産業観光の推進	市内の企業と連携し、企業が有する技術や施設、生産現場などを見学したり体験したりできるような産業観光について、協力事業者の発掘と観光商品化の推進に取り組みます。	●	→	→	→	継続
H29実績	評価欄 D 小学生対象工場見学可能企業は3社ありますが、例えばビール工場などの観光産業に繋がる工場見学可能企業は無いため、産業観光に繋がる取り組みは実施できませんでした。また、信楽焼や薬業工場におきましても企業独自のノウハウ等の技術管理の観点から生産現場の見学は困難であるとのことから取り組み実施できませんでした。					
H30実績	評価欄 D 取り組み実施できませんでした。					
R1実績	評価欄 D 取り組み実施できませんでした。					
R2実績	評価欄 D 取り組み実施できませんでした。					
今後の方向性	観光産業に結びつく工場見学の受入れ企業は現在市内に無く、取り組みの実施が困難であることから計画の見直しが必要と考えている。					

基本事業	事業概要	第1期				第2期以降の見直し
		H29	H30	H31(R1)	R2	
⑤農家民宿と農業体験プログラム	交流を楽しみながら農山村の生活が体験できる農家民宿を確保し、農作業や自然などの地域資源を生かした屋外体験及び特産加工、郷土料理づくりや地域文化活動などの室内体験プログラムを整備します。	●	→	→	→	継続
H29実績	評価欄 B	甲賀市都市農村交流推進協議会事業により、中高生の教育旅行の行程に、甲賀市独自のプログラム(陶芸体験・菜づくり体験)を実施しました。実施体験学校数 2校				
H30実績	評価欄 B	甲賀市都市農村交流推進協議会事業により、中高生の教育旅行の行程に、甲賀市独自のプログラム(陶芸体験・菜づくり体験)を実施しました。実施体験学校数 3校				
R1実績	評価欄 B	甲賀市都市農村交流推進協議会事業により、中高生の教育旅行の行程に、甲賀市独自のプログラム(陶芸体験・菜づくり体験)を実施しました。実施体験学校数 2校				
R2実績	評価欄 D	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業中止としたため、実績なし。				
今後の方向性	中高生の教育旅行だけでなく、ターゲットを大人にも広げ、体験型観光プログラムを検討しグリーンツーリズムに繋げます。					
(3)戦略的マーケティング	実効性のある観光施策の推進のためには、可能な限り客観的な指標・データを根拠として、計画、実施、評価、見直しのPDCAサイクルを回すことが求められます。戦略的マーケティングの視点を確立し、施策効果の測定や事業の見直し、ニーズに基づいた観光商品の開発等の推進に努めます。将来的には、(仮称)甲賀市版観光DMOに業務を引き継ぎ、民間主導による観光振興の充実を図ります。					
①マーケティング・リサーチの実施	観光入込客調査に加え、観光客に対するアンケート調査や事業者からの聞き取り等を実施し、消費者ニーズや実態の把握に努めます。また、近隣観光地や国内旅行の情勢、価格競争力の分析を行い、商品開発と販売戦略に反映します。	●	→	→	→	観光DMOへ引き継ぎ
H29実績	評価欄 A	日本遺産「忍びの里伊賀甲賀」の事業において、マーケティング調査を行い、消費者ニーズや市民の忍者に対する意識調査、外国人対象としたWEB調査、分析等を行い、具体的なターゲット(60台以上の夫婦)およびサブターゲット(20～30歳代の女性、ファミリー)の抽出を行いました。				
H30実績	評価欄 B	日本遺産忍びの里伊賀甲賀協議会事業でニーズ調査で抽出したターゲットを呼び込むためにモニターツアー企画し、実施しました。				
R1実績	評価欄 B	日本遺産事業のモニターツアーを継続実施するとともに、信楽町観光協会と連携して、スカーレットで増加している観光客を対象に新たなモバイルアンケートを実施しました。また、道の駅あいの土山の再整備に向けたマーケティング調査及び経営改善プランの策定に取り組みました。				
R2実績	評価欄 B	信楽町観光協会と連携したモバイルアンケートを継続実施するとともに、11月22日にグランドオープンした観光インフォメーションセンター甲賀流リアル忍者館においても、甲賀市観光まちづくり協会と連携して新たにモバイルアンケートの実施に取り組みしました。				
今後の方向性	調査結果を分析し、ターゲットを意識したテーマ性のあるツアーの造成を検討します。					
②観光調査の実施	観光PRの効果の測定や、市内観光地の周遊の状況、移動交通手段、観光地の認知度、期待度、満足度等の観光振興策を考える上での基礎データを得るため、甲賀市独自の観光調査を実施します。実施方法、調査内容については、費用対効果やマーケティング戦略への活用方針等を考慮して検討します。	△	●	→	→	観光DMOへ引き継ぎ
H29実績	評価欄 B	日本遺産「忍びの里伊賀甲賀」の事業において、マーケティング調査を行い、消費者ニーズや市民の忍者に対する意識調査、外国人対象としたWEB調査、分析等を行いました。				
H30実績	評価欄 B	日本遺産忍びの里伊賀甲賀協議会において実施したモニターツアー事業でアンケート調査を実施しました。				
R1実績	評価欄 B	信楽町観光協会と連携して、スカーレットで増加している観光客を対象に新たなモバイルアンケートを実施しました。また、道の駅あいの土山の再整備に向けたマーケティング調査及び経営改善プランの策定に取り組みました。				
R2実績	評価欄 B	R1年に続き、信楽町観光協会による信楽町を訪れた人に対するアンケート調査を実施して、分析結果を今後の観光施策に活かした。また、甲賀市観光まちづくり協会においてもアンケート調査を実施して、分析結果を今後の観光施策に活かしていきます。				
今後の方向性	甲賀市独自の観光調査を実施する為に、実施方法、調査内容について、費用対効果やマーケティング戦略への活用方針等を考慮しての実施を目指します。					
③観光商品の開発	マーケティング・リサーチとその分析に基づいた戦略的な「観光商品」の開発と観光客による域内消費額の増加、インバウンドの取り込みに努めます。市内観光資源のルート化や、観光地間の連携を促進させ、着地型観光の充実を図ります。		△	●	→	観光DMOへ引き継ぎ
H29実績	評価欄 B	日本遺産事業としてマーケティング調査を実施し、外国人観光客の動向等を調査を行い、インバウンド客を獲得していく為のターゲット設定等を行った。また、パンフレットやホームページの多言語化を図り、インバウンドの取り込みを行いました。				
H30実績	評価欄 B	甲賀市まちぶら事業において、「忍者御朱印帳」を制作し、忍者にゆかりのある市内寺社仏閣を周遊するひとつのツール造成に取り組みしました。				
R1実績	評価欄 A	甲賀市観光まちづくり協会と連携して甲賀まちぶら推進事業に取り組むとともに、信楽町観光協会と連携した新たなモバイルアンケートを実施しました。また、着地型観光を目指し、一般社団法人となった甲賀市観光まちづくり協会による旅行業資格取得を支援しました。併せて着地型周遊観光ルートの造成を目指し、「飯道山周辺観光ルート整備活用計画」を策定しました。				
R2実績	評価欄 B	甲賀市観光まちづくり協会と連携した甲賀まちぶら推進事業を継続実施するとともに、アフターコロナに向けた着地型周遊観光ルートの造成を目指し策定した「飯道山周辺観光ルート整備活用計画」に基づきルート整備工事に着手しました。				
今後の方向性	令和2年度に一般社団法人となった甲賀市観光まちづくり協会が取得した旅行業の資格による着地型の観光商品を造成を推進し、域内消費額の増加を目指します。また、信楽町観光協会が実施しているモバイルアンケートを有効活用していきます。					

基本事業	事業概要	第1期				第2期以降 の見通し
		H29	H30	H31(R1)	R2	

3. 地域活性化戦略

(1) 市民意識の向上		観光振興とまちづくりを一体的に推進する上で、観光地としてのまちの形成に対する市民理解の促進が不可欠です。地域の歴史・文化に対する理解の向上と観光資源に対する誇りの醸成を図ります。					
① 観光に関する市民向け講座の開催		地域の歴史・自然・文化など、観光に関する市民向け講座・学習会を開催し、市民の観光への関心と、地域に対する知識や誇りを高めます。	●	→	→	→	継続
H29実績	評価欄 B	日本遺産のダブル認定を市民に広くPRするため、啓発資料を制作し、忍者給食事業と併せて、市内小・中学校の全生徒に配布し、認知度向上に取り組みました。					
H30実績	評価欄 B	「神君甲賀伊賀越え」を主題とした日本遺産シンポジウムや観光ガイド養成講座の開催、「六古窯」の巡回展を行うなど、市民向けの事業を実施しました。					
R1実績	評価欄 B	日本遺産事業として、忍者観光ガイド育成講座の開催やモニターツアーを実施しました。					
R2実績	評価欄 A	日本遺産事業として、忍者観光ガイド育成講座の開催を継続実施するとともに、グランドオープンした観光インフォメーションセンター甲賀流リアル忍者館で甲賀流忍者の歴史文化を広く紹介し、市民の関心とシビックプライドの向上に取り組みました。					
今後の方向性		甲賀流リアル忍者館において、様々な市民参加型のイベントを企画、実施します。					
② 学びを通じた人材の育成		ボランティアガイドによる地域の歴史・自然・文化に関する講座の開講や、学校給食への地元産食材の活用等、子どもたちが地域のことについて学んだり体験したりできる機会を増やし、観光まちづくりに参画する人材の育成に努めます。	△	●	→	→	継続
H29実績	評価欄 B	忍者の日(2月22日)における忍者給食や忍術研究会による忍者出前講座により子どもたちに忍者のまちであることの意識づけを行いました。					
H30実績	評価欄 B	忍者の日(2月22日)における忍者給食や忍術研究会による忍者出前講座により子どもたちに忍者のまちであることの意識づけを行いました。また、伊賀・甲賀忍者協議会事業において、ガイド育成講座を開催し、人材育成に努めました。					
R1実績	評価欄 B	忍者給食及び忍者出前講座、ガイド育成講座を継続実施するとともに、日本遺産の研修を活用し、これまでのボランティアガイドから稼ぐ仕組みとしての観光ガイドへのレベルアップについて検討しました。					
R2実績	評価欄 B	忍者給食及び忍者出前講座、ガイド育成講座を継続実施するとともに、日本遺産の研修を活用し、これまでのボランティアガイドから稼ぐ仕組みとしての観光ガイドへのレベルアップについて検討しました。					
今後の方向性		忍者給食や忍者出前講座を継続するとともに、甲賀流リアル忍者館を活用した忍者体験や講座の開催等について、関連団体の協力も得ながら進めます。					
③ 環境学習プログラムの推進		市民を対象とした自然体験学習やエコツアー等の環境学習プログラムを実施し、地域の自然環境の価値について理解の向上を図ります。	△	●	→	→	継続
H29実績	評価欄 D	環境学習プログラムについての検討は実施できませんでした。					
H30実績	評価欄 D	環境学習プログラムについての検討は実施できませんでした。					
R1実績	評価欄 B	文化財や豊かな自然を観光資源として周遊ルート化することも目的のひとつとして、「飯道山周辺観光ルート整備活用計画」を観光誘客活用の他、エコツーリズムやヘルスツーリズムにも活かせるよう策定しました。					
R2実績	評価欄 B	「飯道山周辺観光ルート整備活用計画」に基づくルート整備に着手しました。また、伊賀甲賀忍者協議会事業として、地域の自然環境を活かしたサイクルツーリズムのルート造成にも着手しました。					
今後の方向性		2022年開催の全国植樹祭を1つの目標として、地域の自然環境の価値について理解の向上を図り、エコツアーや環境学習プログラムの実施の実現を目指します。					
(2) 市民・事業者との協働		本市における観光振興に対する市民・事業者の意識は、地域による格差が大きいことが指摘されており、全市的な観光振興への関心は十分とは言えない状況です。幅広い市民・事業者の参加を促す取り組みを推進し、市民・事業者との協働による観光振興の充実を図ります。					
① 観光協会の機能強化		本市における観光振興の中心的な役割を担う観光協会が率先して旅行商品の開発、取り扱いができる機能強化を支援します。	●	→	→	→	継続
H29実績	評価欄 C	機能強化を目指した一般社団法人になる為の準備として、他団体の先進的な取り組みを調査し、組織づくりの準備をしました。					
H30実績	評価欄 B	甲賀市版観光DMOの早期設立が難しい状況であることから、一旦立ち止まり、本市の観光産業の中核を担う両観光協会の機能強化に向けた支援を強化することとしたことから、その組織づくりの準備を進めました。					
R1実績	評価欄 A	甲賀市観光協会が11月に一般社団法人甲賀市観光まちづくり協会になり、また着地型観光を目指して旅行業の資格取得され、また、信楽町観光協会については、DMC設立研究調査事業として新たにモバイル調査を実施され、市はその支援を実施しました。また、スカーレット事業におきましても市・協会・事業者が連携して事業実施に取り組みました。					
R2実績	評価欄 A	グランドオープンした観光インフォメーションセンター「甲賀流リアル忍者館」の管理運営について、一般社団法人甲賀市観光まちづくり協会が受託され、市の総合案内機能と併せて観光まちづくりの拠点となる取り組みを進めていくことで組織強化にも繋がります。また信楽町観光協会は「テレビドラマの世界展」を共催実施されるなど、スカーレットレガシーを活用した観光振興と組織強化を図りました。					
今後の方向性		今後も両観光協会の組織強化を支援するとともに、両観光協会の連携した事業展開を推進していきます。					

基本事業	事業概要	第1期				第2期以降 の見直し
		H29	H30	H31(R1)	R2	
②観光ガイドの育成と組織化	観光ガイドの養成講座やスキルアップ研修を開催し、ガイドの人材育成及び組織化を進めます。また、外国語ガイドの体制整備について、今後の誘客戦略を踏まえながら検討します。	●	→	→	→	継続
H29実績	評価欄 B 忍者に関するガイド養成のため、日本遺産「忍びの里」に関する教則本の作成を行いました。					
H30実績	評価欄 A 29年度に作成した教則本を活用し、忍者に関するガイド養成講座を伊賀市甲賀市で各3回実施しました。また外国語ガイド研修を伊賀市で1回実施し、事業者向けの外国人旅行客への対応研修を伊賀市2回、甲賀市1回実施しました。					
R1実績	評価欄 A 日本遺産忍びの里の構成文化財やストーリーをわかりやすく解説出来る観光ガイドを育成する研修を実施しました。伊賀市・甲賀市で座学:各2回 現地:各1回を実施し、モニターツアーのガイドを受講者が行いました。					
R2実績	評価欄 B 日本遺産「忍びの里伊賀・甲賀」リアル忍者ガイド養成講座を伊賀市・甲賀市にてそれぞれ実施しました。					
今後の方向性	ガイドの養成、組織化を図り、日本遺産「忍びの里」のストーリーを説明できる有償ガイドを育成することにより、ガイドとしての技術向上、継続性および人材の発掘、引いては旅行満足度の向上、誘客促進へとつなげる。					
③空き家・空き店舗活用	街道筋の町家及び空き店舗を活用したコミュニティビジネスの創業や立ち寄り所の整備に対する支援を検討します。	△	●	→	→	継続
H29実績	評価欄 C 他の地域の状況を調査し、甲賀市に合う街道筋の活用について、「東海道土山水口宿場会議」や「水口岡山城の会」において検討を行いました。					
H30実績	評価欄 A 歴史文化都市構築事業により、旧東海道水口宿の古民家再生・活用(旧富田呉服店)の支援を、また、土山宿における古民家(扇屋)での年間を通してのイベント開催の支援を行いました。					
R1実績	評価欄 B 歴史文化都市構築事業による、旧東海道水口宿の古民家再生・活用支援及び土山宿における古民家(扇屋)での年間を通してのイベント開催について継続して支援を行いました。					
R2実績	評価欄 B 空き家・空き店舗活用を含む、旧東海道の暮らし・にぎわい再生事業として、市役所の4部が連携して検討する事業に着手し、地域が組織する団体との懇談会を開催し協議を進めました。					
今後の方向性	懇談会での意見を基にした事業展開を実施します。					
④観光セミナーや研修・講習の開催	専門分野の講師を招き、観光に関するセミナーや、受け入れに必要な接客マナー、心構え、安全・衛生管理等に関する研修・講習を開催します。	△	●	→	→	継続
H29実績	評価欄 C びわ湖ビジターズビューロー等が開催する観光に関するセミナーに参加しました。					
H30実績	評価欄 A 日本遺産事業として、飲食店や宿泊施設、観光関連事業を行う事業者を対象とした外国人おもてなし講座やインバウンドに対応したガイド養成を行いました。					
R1実績	評価欄 B 日本遺産事業として、飲食店や宿泊施設、観光関連事業を行う事業者を対象としたインバウンドに対応したガイド養成を行いました。					
R2実績	評価欄 A アフターコロナのインバウンド対策として、今年度はじめて実施された観光庁の「地域の観光人材のインバウンド対応能力強化研修」を活用し、国から講師を迎え、本市でインバウンド対応研修を初級、中級に分け2回実施しました。					
今後の方向性	観光地としての魅力向上を図るため、観光関連事業者を対象とした研修や支援事業を行います。					
(3)広域連携	観光誘客のさらなる促進やインバウンドの取り込みにおいては、甲賀市単独の取り組みだけでは限界があります。近隣自治体との広域的な連携や協力関係を確立し、観光客の行動範囲に対応した取り組みの充実を図ります。					
①忍者をキーワードとする自治体間連携の強化	忍者を観光資源として有効活用している先進地である伊賀市との関係を軸としながら、日本忍者協議会の活動を通じて、忍者を観光資源としている自治体との観光面での連携をさらに強化していきます。	●	→	→	→	継続
H29実績	評価欄 A 日本遺産認定に伴い、伊賀市や両市の観光協会と連携強化を図るため、「忍びの里伊賀・甲賀忍者協議会」を設立し、各種事業を展開した。また、日本忍者協議会との事業連携により他の自治体とのネットワークを広げました。					
H30実績	評価欄 A 伊賀市とともにお互いの構成文化財をめぐる視察や各種事業により、リアル忍者のストーリーの共通認識を図るとともに連携強化を図りました。また、日本忍者協議会の会議、事業に参加することで、他の忍者関連自治体とのネットワークを広げました。					
R1実績	評価欄 A 関西で初開催となったツーリズムエキスポジャパンに日本忍者協議会や伊賀市と連携して観光PRブースを出展しました。					
R2実績	評価欄 B 日本忍者協議会事業や伊賀甲賀忍者協議会事業のイベント企画は新型コロナウイルスの影響により中止となりましたが、リモートによる会議により情報共有や企画事業は継続して実施し連携を図りました。					
今後の方向性	日本忍者協議会事業に伊賀市とともに参加、協力することにより、他の忍者に関連する自治体とのネットワーク強化、事業の連携等を図ります。					

基本事業	事業概要	第1期				第2期以降の見直し
		H29	H30	H31(R1)	R2	
②日本遺産に関する自治体間連携の強化	六古窯日本遺産活用協議会、忍びの里伊賀甲賀忍者協議会等の活動を通じて、日本六古窯の所在自治体をはじめとする「焼き物」を観光資源としている自治体や忍者を観光資源とする伊賀市との観光面での連携をさらに強化していきます。	●	→	→	→	継続
H29実績	評価欄 A 日本遺産「六古窯」については、「六古窯日本遺産活用協議会」を「忍者」については、「忍びの里伊賀甲賀忍者協議会」を設立し、それぞれの関係団体との定期的な会議、事業等を通じて、ネットワークの強化を図りました。					
H30実績	評価欄 A 伊賀甲賀忍者協議会による事業を展開するとともに、日本遺産サミット等を通じて、他の日本遺産認定自治体とのネットワークを形成を図り、甲賀市で行った日本遺産シンポジウムで日本遺産紹介ブースを設置するなど、他の自治体との連携を図りました。					
R1実績	評価欄 B 伊賀甲賀忍者協議会による事業展開や、日本遺産サミット等を通じた、他の日本遺産認定自治体とのネットワークの形成を図るなどの取り組みを進めました。					
R2実績	評価欄 B 伊賀甲賀忍者協議会による事業展開や、日本遺産サミット等を通じた、他の日本遺産認定自治体とのネットワークの形成を図るなどの取り組みを進めました。					
今後の方向性	日本遺産を通じて、他の自治体等との情報共有およびネットワークの強化、事業の連携を図り、新たな事業実施に向け検討を進めます。					
③広域連携の推進	近隣自治体との広域連携による観光ルートの形成や、誘客の促進など、交通アクセスの向上にともなう旅行者の行動範囲の拡大に対応した広域連携による観光振興の充実を図ります。	●	→	→	→	継続
H29実績	評価欄 B 日本遺産「忍びの里」の事業として行ったマーケティング調査をもとに伊賀市との広域的な観光ルート形成に向けての協議を行いました。					
H30実績	評価欄 A 日本遺産「忍びの里」の事業として、伊賀甲賀の忍者が活躍した「神君甲賀伊賀越え」をテーマとしたモニターツアーを行い、両市の観光資源をめぐるモデルルートの検討を行いました。					
R1実績	評価欄 B 伊賀市・甲賀市・亀山市で形成する広域連携組織で観光マップを作成し、忍者による伊賀市との連携、東海道の宿場による亀山市との連携を強化しました。					
R2実績	評価欄 B コロナ禍のため、計画していたイベント等は中止となりましたが、昨年度に作成したマップを滋賀県や三重県の観光施設及び東京のアンテナショップ等に設置し、3市のPRを実施しました。また、伊賀甲賀忍者協議会においてサイクルツーリズムのコース造成に着手しました。					
今後の方向性	伊賀市とともにリアル忍者ガイドを養成し、組織化することにより、広域的な新たなルート造成や旅行事業者へのPRを行います。また、東海道の宿場による更なる広域連携を進めるため、本市以西の宿場との関係を構築します。					
④都市農村交流の充実	甲賀市都市農村交流推進協議会を中心に、主に農家を受け皿とした教育旅行への中学校修学旅行生等の受け入れを推進します。	●	→	→	→	継続
H29実績	評価欄 A 甲賀市都市農村交流推進協議会の取り組みにより、平成29年度の教育旅行の受入学校数8校、参加人数929人の受入実績となりました。					
H30実績	評価欄 A 甲賀市都市農村交流推進協議会の取り組みにより、平成30年度の教育旅行の受入学校数13校、参加人数1132人の受入実績となりました。					
R1実績	評価欄 A 甲賀市都市農村交流推進協議会の取り組みにより、平成30年度の教育旅行の受入学校数12校、参加人数797人の受入実績となりました。					
R2実績	評価欄 D 新型コロナウイルス感染症の影響により、受入れ事業が中止となったことから実績なし。					
今後の方向性	今後も継続的に事業を維持しながら、甲賀らしい受入れ体制の構築や魅力的なまちづくりを目指す。					
(4)(仮称)甲賀市版観光DMOの設立	効果的な観光振興のためには、行政的な取り組みだけでは限界があります。観光まちづくりに関する専門的な人材を有し、観光振興とまちづくりを中・長期的視点から実践的にマネジメントする組織として、(仮称)甲賀市版観光DMOの設立を推進します。					
①設立準備委員会の設置	(仮称)甲賀市版観光DMOの設立に向け、観光関係団体や市民の参加による設立準備委員会を設置し、DMOの組織形態や甲賀市における役割、担い手となる組織・団体の構成等について検討を進めます。	●	→	→	→	観光DMOへ引き継ぎ
H29実績	評価欄 C 株式会社インブリージョンから専門家を迎え、甲賀市版DMO設立に向けた調査を実施しました。調査結果からは、甲賀市版DMOの早期設立は困難であることから、設立の前段として、本市の観光政策の中核となる組織である2つの観光協会を強化支援していく工程を追加し、取り組むこととしたことから、設立準備委員会は設置できませんでした。					
H30実績	評価欄 D 調査報告結果に基づき観光協会の強化方針を検討しました。甲賀市観光協会は、一般社団法人に向けた準備と旅行業免許の取得を目指し、自ら稼ぐ力を強化し、信楽町観光協会は伊賀市で実績のあった観光統計調査の導入を決定され、市はそのための支援を強化することとしました。					
R1実績	評価欄 D 11月に一般社団法人甲賀市観光まちづくり協会を設立及び旅行業の資格を取得され。また、信楽町観光協会は伊賀上野観光協会DMOマーケティングチームの協力の基にスカーレットで注目を集める信楽エリアにおいて観光客へのアンケート調査を実施し、組織強化に向けた取り組みを進めました。					
R2実績	評価欄 D 両観光協会による組織、機能強化の取り組みを継続実施するとともに、「スカーレットで甲賀を盛り上げる推進協議会」での事業展開など新たな観光振興の形に取り組みを進めましたが、DMO設立に向けた準備委員会の設立には至りませんでした。					
今後の方向性	持続可能な観光地経営を目指し、まずは、本市観光政策の中核組織である2つの観光協会を強化支援していくこととしており、DMO設立準備委員会についての設置は現在、未定です。					

基本事業	事業概要		第1期				第2期以降 の見通し
			H29	H30	H31(R1)	R2	
②事務局機能の確立	甲賀市行政機関に「DMO設立準備室」を設置し、(仮称)甲賀市版観光DMOの設立に向けた事務局機能の強化を図ります。また、DMO設立までの間の観光プロモーションについて、設立準備委員会と連携して取り組みます。		●	→	→	→	観光DMOへ引き継ぎ
H29実績	評価欄 C	(仮称)甲賀市版観光DMOの設立に向け、株式会社インプリージョンから専門家を迎え、甲賀市版DMO設立に向けた調査を実施したが、「DMO設立準備室」の設置には至りませんでした。					
H30実績	評価欄 D	専門家の調査結果に基づき、将来的には甲賀市版観光DMOの設立を目指すものの、その前の段階として、観光協会の機能強化を優先することとした。このことにより、設立準備室や設立準備委員会は設置せず、観光協会への強化支援事業や観光事業の担い手育成等に取り組むこととしました。					
R1実績	評価欄 D	両観光協会による組織強化の取り組みを支援しましたが、設立準備室や設立準備委員会の設置には至りませんでした。					
R2実績	評価欄 D	両観光協会による組織強化の取り組みを支援しましたが、設立準備室や設立準備委員会の設置には至りませんでした。					
今後の方向性	事務局としては設立しないが、現状の体制により、観光協会の機能強化支援等を継続しながら、持続可能な観光地経営を目指して取り組みを進めます。						
③組織体の設立	平成30年度までに、設立準備委員会の議論を踏まえ、(仮称)甲賀市版観光DMOを法人化するとともに、観光庁への登録を行います。運営の状況等を考慮しつつ、徐々に行政は後方支援に回り、民間主導による運営の充実を図ります。		△	●	→	→	観光DMOへ引き継ぎ
H29実績	評価欄 D	(仮称)甲賀市版観光DMOの設立に向け、株式会社インプリージョンから専門家として迎え、甲賀市版DMO設立に向けた調査を実施したが、「DMO設立準備室」の設置には至りませんでした。					
H30実績	評価欄 D	専門家による調査結果に基づき、甲賀市版DMOの設立の前段として観光協会の機能強化を行う方針のため、本年度においてDMO法人化、観光庁への登録は延期しました。					
R1実績	評価欄 D	両観光協会の機能強化に力点を置き、甲賀市観光協会は一般社団法人化を実現し、信楽町観光協会もDMCを視野に入れた調査研究を実施するなど取り組みをすすめてきましたが、甲賀市版DMOの設立には至りませんでした。					
R2実績	評価欄 D	両観光協会です新たにモバイルアンケートによるマーケティング調査を実施するなど取り組みを進めましたが、甲賀市版DMOの設立には至りませんでした。					
今後の方向性	本市において、新たな組織とするDMOの法人化及び観光庁への登録は時期尚早であると考えており、持続可能な観光地経営を目指し、まずは両観光協会の機能強化支援等の事業を実施していきます。						